

ワークショップにおける意見

自助

自助の理念にのっとり、自ら災害に備えるとともに、防災に寄与するため、次に掲げる事項の実施に努めなければなりません。

(市民の自助)

平常時

情報入手

- ・ハザードマップを確認しましょう
- ・ホームページで防災マップや浸水想定地域を確認しましょう
- ・防災講座に積極的に参加しましょう
- ・インターネット環境、Wi-Fi の確保しましょう
- ・メール配信サービス、SNS を登録しましょう

防災訓練

- ・防災訓練に積極的に参加しましょう
例) 炊き出し体験、介護体験、消火器体験、非常用トイレ

耐震

- ・耐震性能のない古い家や空き家は早急に耐震工事を行いましょう
- ・耐震強度を把握するために専門家に相談しましょう
- ・冷蔵庫、タンス、テレビ等の家具の転倒金具止めをしましょう
- ・フェンスやブロック塀の強度を確認しておきましょう
- ・ベッドの強度を確認しておきましょう
- ・窓ガラスに飛散防止フィルムを貼りましょう
- ・照明器具が落下してこないか確認しておきましょう

備蓄

- ・水や食料を最低でも1週間分は用意しましょう(ローリングストックを心掛ける)
- ・防災グッズを用意しておきましょう
例) 発電機、手袋、タオル、浄水器、電池、ポータブル電源、モバイルバッテリー、ランタン、懐中電灯、ヘルメット、ヘッドランプ、ガスコンロ、ガスボンベ、車いす、テント、MY 笛、ロープ、ゴムボート、救命胴衣、浮き輪、空のペットボトル、クーラーボックス、毛布、布団、衣類、常備薬、携帯用トイレ、無線機、折り畳み自転車、ライフジャケット、固形燃料、

- ・備蓄は数か所に分けておきましょう
- ・粉ミルクや哺乳瓶などの乳児に必要な物資の備蓄をしておきましょう
- ・備蓄品を車や倉庫に入れておきましょう
- ・備蓄品を常に準備しておくことが大切だという意識を持ちましょう

家庭

- ・水害の恐れがある地域では土地を高くしましょう
- ・地震が起きた時に家具が倒れてくることを想定して配置を工夫しましょう
- ・整理整頓をして高い家具の上に物を置かないようにしましょう
- ・背の高い家具ではなくなるべく低い家具を置きましょう
- ・食器は低い位置に置いておきましょう
- ・すぐに逃げられるように底の丈夫な履物や懐中電灯を置いておきましょう
- ・災害ごみの削減、備蓄場所の確保のためにも不要なものは捨てましょう
- ・押し入れ等の収納は下の段のみに重いものをしまいましょう
- ・食器棚の扉はロック付きのものにしましょう
- ・倒れてくる可能性のある家具の近くで食事はしないでおきましょう
- ・重い家具を動かす方法を調べておきましょう
- ・災害時に避難できるように二階に梯子やゴムボートの用意をしておきましょう
- ・ラジオや携帯用トイレ、救命胴衣などの使い方を覚えておきましょう
- ・地域の人を泊めてあげられるような部屋を用意しましょう
- ・役割分担を決めておきましょう（災害時要援護者を助ける人など）
- ・井戸や高い場所を確認しておきましょう
- ・避難場所や収容人数、集合場所を決めておきましょう
- ・避難経路を決めておきましょう
- ・連絡方法を確認しておきましょう（災害用伝言ダイヤル等）
- ・危険な場所を確認しておきましょう（ブロック塀、川の近く等）
- ・泳力を鍛えましょう
- ・自治会に積極的に参加しましょう
- ・家で一番狭い部屋に移動

連絡

- ・災害伝言ダイヤルを使ってみましょう
- ・家族で非常時の連絡手段を確認しておきましょう
- ・携帯電話以外の情報手段を確認しておきましょう
- ・SNSを登録しましょう

意識

- ・自分の身は自分で守るという意識を持ちましょう
- ・一人ひとりが常に一人で生きていかなければならない状況を想定しましょう
- ・危機意識を持ちましょう

発災時

情報入手

- ・テレビやラジオを確認しましょう
- ・気象、水位情報を入手しましょう
- ・スマートフォン等の位置情報をオンにしましょう
- ・指定避難所の混雑状況を確認しましょう

安全の確保

【地震】

- ・ブレーカーを落としましょう
- ・ガスの元栓を占めましょう
- ・避難場所は早めに確保しましょう
- ・地震時は、机の下に隠れる、クッションやカバンで頭部を守りましょう
- ・地震時は、足を守るため靴やスリッパを履きましょう
- ・自分の命は自分で守りましょう
- ・早めの避難を心がけましょう
- ・自分の命を一番に考えましょう
- ・揺れがおさまったら庭などの広くて安全な場所に逃げましょう
- ・ドアを開放し、避難経路を確保しましょう
- ・逃げるときは人がいないことを玄関などに明示しましょう
- ・家具の下敷きになってしまった人がいたら、中のものを出して救助しやすいようにしましょう
- ・二次災害を防ぐためにも無理に家に帰らないようにしましょう

【大雨】

- ・無理に家から出ないようにしましょう
- ・大きな声で助けを求めましょう
- ・会社は無理せず休みましょう

【洪水】

- ・水害時は学校や商業施設など、高い建物に避難しましょう
- ・洪水の危険性が高い時は市外へのひなん避難しましょう

連絡

- ・状況が落ち着いたら家族と連絡を取り安否を確認しましょう
例) 災害伝言ダイヤル、グループライン、伝言ダイヤル、メール等
- ・すぐに救急隊員を呼びましょう
- ・布を使ってSOSのサインを出しましょう
- ・公衆電話の位置の確認しましょう
- ・家族と連絡が取れないときは近所の人とへ連絡しましょう
- ・避難所の掲示板で連絡を取りましょう

避難生活

- ・必要なものだけ持ち出しましょう
- ・避難生活のためホテルなどを確保しましょう。

復旧時

情報入手

- ・テレビやラジオを確認しましょう

共助

共助の理念にのっとり、市その他の行政機関が実施する防災及び減災のため、次に掲げる事項の実施に努めなければなりません。

(市民の共助)

平常時

交流

- ・あいさつや日頃からの付き合いを活発にして助け合える関係作りをしましょう
例) ゴミ出し、ラジオ体操など
- ・近所で家庭の情報を共有しておきましょう(災害時要配慮者、独居高齢者の存在など)
- ・自治会に積極的に参加しましょう
- ・連絡網を作成しましょう
- ・公民館の錠を共有しましょう
- ・子供が留守番するときは声を掛け合いましょう

防災

- ・近所で避難場所や避難経路などのルールを作っておきましょう
- ・少人数チームを作り、リーダーを決めておきましょう
- ・防災グッズが用意できているか互いに確認し合いましょう
- ・危険な場所を確認し合いましょう
- ・地域で建物の耐震や備蓄の点検をする行事を作りましょう

発災時

- ・確保できた避難場所を近所の人に共有しましょう
- ・負傷者がいたら助け合いましょう
- ・近所の人と助け合いましょう(水や食料の提供、寝床、車に乗せてもらうなど)
- ・近所の人と励ましあいましょう

復旧時

(自主防災組織)

平常時

- ・防災訓練を行いましょう

- ・定期的に防災講座を行いましょ
- ・地域で建物の耐震や備蓄の点検をする行事を作らましょ
- ・区で災害準備金を積み立てましょ
- ・高齢独居者の把握をましょ

発災時

- ・水や食料を分け合いましょ
- ・救助活動を行いましょ
- ・救助係を決め、各家庭の安否確認をましょ

復旧時

- ・公民館、集会所を有効活用ましょ

(防災情報の共有等)

平常時

- ・子供でも分かるハザードマップを作成ましょ
- ・啓発物品や展示物を作らましょ
- ・近所でルールを作っておきましょ
- ・防災グッズが用意できているか互いに確認し合いましょ
- ・危険な場所を確認し合いましょ
- ・防災講座を行いましょ
- ・近所共有の災害伝言ダイヤルを作成ましょ

発災時

- ・防災スピーカーで情報を伝えましょ

復旧時

公助

災害に備え迅速かつ組織的に対応することができるよう計画を策定するとともに、その対策を行うために必要な体制を整備するものとする。

(市の責務)

平常時

- ・子供でも分かるハザードマップを作成ましょ
- ・水害の恐れがある地域では土地を高くましょ
- ・他機関との協定を進めましょ（高速道路、鉄道、スーパー、コンビニなど）
- ・水害時の避難場所を確保するために高いビル企業の話し合いをましょ
- ・市内の企業に避難場所を設置するように促しましょ
- ・高い建物を造らましょ
- ・堤防の整備をましょ

- ・学校の受け入れ態勢を確認しましょう
- ・定期的に排水ポンプを確認しましょう
- ・遊水地を作りましょう
- ・データをクラウド化しておきましょう
- ・市の職員は市内の人を採用しましょう
- ・防災ツアーを企画し、市民の意識を高めましょう
- ・過去の災害を詳しく知らせましょう
- ・避難生活時の法律を作成しましょう

発災時

- ・避難場所を早急に確保し、市民に提供しましょう
- ・防災用具の貸し出しをしましょう
- ・食料の支援をしましょう
- ・国と連携して救助を行いましょう
- ・早めに避難情報を出しましょう

復旧時

- ・食料を地域へ支給しましょう